

主要観光地の周回バスを運行し、 地域と京都を活性化させる

合同会社 京都まちづくり交通研究所

代表社員 宇津 克美さん



宇津 克美さん

交通機関の整備で京都のまちを活性化する

平成25（2013）年4月に運行した京都の新しい交通機関『京都ひるバス』。JR京都駅から金閣寺、清水寺など世界遺産6カ所を含む13カ所の観光名所を巡る周回バスで、国内外からの観光客に利用されています。当バスの運営を担っているのが、合同会社京都まちづくり交通研究所です。代表社員宇津克美さんは、錦市場商店街にある『京つけもの栞』の会長であり、京都錦市場商店街振興組合理事長、京都商店連盟会長、京都府商店街振興組合連合会理事長を兼任。家業の経営を退いた現在は、地域振興の仕事に力を注いでいます。

「商店街は立地産業ですから、お客さんに来ていただかないと商売になりません。また、京都市は観光客5000万人構想を掲げていますが、神社仏閣があるだけでなく京都の都心が活性化していないとお客さんは来ません。そのためには、交通の利便性を高める必要があります」。



『京都ひるバス』は提携する京阪バスの車両を使用

これまでの京都の交通機関の盲点を埋める

同社の始まりは、平成19（2007）年度に実施されたNEDO（新エネルギー産業技術総合開発機構）事業の一環として、宇津さんたち京都市都心部の事業者と京都大学、国・京都府・京都市の民学官で設立した『交通環境マネジメント委員会』でした。

「その会で、初めて京都の交通環境の実際を知りました。例えば、JR京都駅から直接、都心部の河原町へ行く手段はバスしかありません。しかし当時、京都市は交通局の赤字解消のために、この経路の運行本数をカットしたんです。理論上は良い施策ですが、京都駅から都心部へのアクセス手段が不便になると、京都の衰退につながります。そうした状況を知り、私たちが現状の交通網の盲点を埋める交通機関の運営を始めたのです」。

その運営母体として、産学協働でまちづくりや交通に関する事業を行う有限責任事業組合を発足。同社の強みである豊富な人脈を生かして、リサーチと関係各所との

観光資源の活用

調整を進め、同年12月には河原町三条や四条河原町とJR京都駅を結ぶ『かわらまち・よるバス』を運行しました。コストの無駄を避けるため、運行時間は交通ニーズの高い夜10～11時に集中。待ち時間が少なく済む10分おきに走らせるアイデアも功を奏し、運行開始から平成25年12月末時点までに約42万人が利用しています。その後も、祇園や四条烏丸と、JR京都駅をつなぐ『ぎおん・よるバス』や夜間観光バス『京都観光よるバス』の運行、主要な観光地間を移動する際に最適な経路をWebで検索できる情報サービス『京都観光地めぐり時刻表』など様々な事業を展開してきました。

成功した事業の資金とノウハウを新しい事業へ生かす

「当社は人的交流を目的とした会社ですから、利益は私たちが得るのではなく新しい事業に投資します。そのために、平成21（2009）年に有限責任事業組合から合同会社



世界遺産を含む13の名所を効率的に観光できます

にしました」と宇津さん。『京都観光よるバス』では、京都大学の協力のもと、平安神宮前でバスの乗務員がスイッチを押すとライトアップされるシステムや、京都の歴史を解説する情報サービスを開発。当事業の成功を受けて、昼間の観光バス事業『京都ひるバス』を企画しました。

高度な語学やIT技術を有する京都大学との協力体制やこれまでに培ったノウハウを生かした『京都ひるバス』は、土曜日・日曜日・祝日に設定。観光地の見学や周辺地域での買い物・食事でもできるよう運行ペースを1時間おき



京都大学と協力して開発した運行状況システム

きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業 平成24年度 事例集

と設定し、1日の乗り降りを自由にしました。また、日本語・英語・中国語・韓国語の4カ国語で京都や観光地の情報を聞くことができる音声ガイドと英語・中国語・韓国語のレシーバーを貸し出すサービス、スマートフォンでバス乗り場の案内や運行状況を閲覧できる情報サービスも導入しています。



運行状況システムでは、乗降場所の周辺情報も閲覧可能です

綿密な計画で継続可能な事業計画を立案する

事業計画にあたって、「合同会社は人的交流のための組織ですが、事業を継続するために、損益やリスクは常に考えています」と宇津さん。GPSを用いた位置情報案内システムや多国語の情報サービスの開発費と搭載費、広告・宣伝費、事務経費など運行開始までにかかる経費を約600万円と試算。資金の約半分の助成金事業申請を行いました。サービス開始後は、情報が浸透していないため集客が難しい面もありましたが、運行開始後の約8カ月間で約6500人を達成。認知度の向上に伴うさらなる利用者増が期待されています。

今後は、少子高齢化の世の中にあって京都にふさわしい高機能のバスシステムや、次世代型路面電車のLRTなど、新しい交通施策の整備を計画しているといいます。

「京都を活性化するためには、地域や市・府という“面”の視点から、人々が快適に買い物や食事を楽しめる環境をつくらなければいけません。やるべきことは山積みですが、民学官が協力して交通の利便性を高め、京都の町や人々の暮らしがよくなっていく。そんな未来を夢見て、今後も事業を展開していきたいと思います」。

事業概要

合同会社京都まちづくり交通研究所
<http://www.kyoto-lab.jp/llc/index.html>
 代表：代表社員 宇津 克美
 業種：京都の都市活性化及び交通利便性の向上に貢献する交通機関の企画・運行等
 創業：平成19年12月
 住所：〒603-8054 京都市中京区富小路通四条上ル西大文字町609番地
 TEL：075-255-4849 FAX：075-231-8812